

フィリピン・イフガオ棚田群での保全プロジェクトは、一時的な改善を試みる対症療法ではありません。収量を増加させ働き手を増やすことで後継者育成が促進され、この地で脈々と続けられてきた農法を守ることに繋がります。そして棚田群の自然風景が保たれ、伝統的な生活文化が継承されることが真の目的だと考えています。

今回ご紹介した富田一也さん江里子さん夫妻には、それぞれかけがえのない活動にFFC製品を活用していただき、健康、環境改善へとお役立っていただいています。このような社会貢献活動は、FFCテクノロジーへの信頼を高め、またフィランソの社会的信用にもつながることでしょう。

赤塚グループでは、フィランソ会員の皆様とともに社会貢献活動を応援したいと考えています。「一人の健康から地球の未来まで」のテーマのもと、安心して暮らせる未来を実現するために、今後も皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



フィランソ会員様をはじめ日本の方々にフィリピンでのお産や疾病の現状を紹介する富田江里子さん。(2016年7月・赤塚グループFFCホールにて)



NPO法人「NEKKO」ご紹介

兵庫県に事務所を置き、フィリピンにおいて植林や農業支援、保健衛生や教育などのボランティア活動を続けているNPO法人。フィリピン各地での植林と農業の支援活動を行うほか、スービック市の無料マタニティークリニック「バルナバクリニック」や、貧困で学校に行けない子どもたちを支援する施設「WISH HOUSE」を設立、運営しています。



(ホームページより)

NPO法人 NEKKO ホームページ

<http://www.geocities.jp/ikgs2/ikgs/>

FFC 社会貢献レポート

AKATSUKA (赤塚グループ)

株式会社 赤塚

〒514-2293 三重県津市高野尾町1863番地の1

お客様センター (平日9~17時) **0800-700-2888**

イフガオ棚田群 保全プロジェクトについては赤塚グループWEBサイトでご覧いただけます

<http://www.akatsuka.gr.jp>

赤塚グループ で検索



一人の健康から地球の未来まで

AKATSUKA

赤塚グループ

www.akatsuka.gr.jp



イフガオ棚田群 保全プロジェクト

赤塚グループは、ユネスコ世界遺産(危機遺産)であるフィリピン・イフガオ州にある棚田群の保全のため、2016年よりFFC製品を応用した取り組みを行っています。



農地の改善や環境改善に幅広く役立てられているFFCテクノロジー。いま、海を越えてフィリピンのルソン島にある世界遺産「イフガオ棚田群」でもFFC製品を活用した取り組みが2016年より始まっています。

イフガオ棚田群は、標高1,000m以上の山々の斜面に広がり、イフガオ族が2,000年前から造成したといわれています。その歴史的価値や土地を生かした景観が評価され、1995年にユネスコ世界遺産(文化遺産)に登録されました。一方で、若者の都会への移住や生活の近代化、森林伐採が進むとともに耕作の放棄や収量の減少、

景観の崩壊が生じ、2001年に世界遺産の危機遺産にも登録されました。

赤塚グループでは、赤塚耕一社長らが2016年2月にフィリピンを訪問。現地で活動するNPO法人と協議のうえFFCエースやFFCセラミックを使った環境改善プロジェクトがスタートし、同年秋の収穫時には早くも現地より環境や収量の変化について報告がありました。また、2017年からはフィランソ会員様のご支援も加わり、さらなる改善に期待が膨らんでいます。

これまでの経緯と現地の様子をご紹介します。

イフガオ棚田群とは・・・

コルディリエラ棚田群として世界遺産に登録。イフガオ州をはじめルソン島の山岳地帯の様々な村で傾斜を生かした見事な棚田の景観が見られ、「天国への階段」とも称される。

プロジェクト
実施場所

フィリピン・ルソン島
コルディリエラ行政地域
イフガオ州ウハ地区
(マニラより車で片道約10時間)





①山の斜面をいかした美しいイフガオ棚田群の風景。②富田一也さん(写真右)と現地の方々とともに。③耕作放棄などの原因であぜが崩れ、棚田が失われつつある。④除草剤の使用も始まり新たな問題も危惧される。⑤ FFCを導入する場所の水源を確認。

2016年2月に富田江里子さんを訪問。マタニティクリニックや教育支援施設、またスービック市内の様子を見学。人々にふれ合い、生活や健康の現状を目の当たりにした。



赤塚グループがイフガオ棚田群の保全を支援することになったきっかけは2016年2月、赤塚耕一社長らがフィリピン・ルソン島の町スービックを訪れたことにあります。この町では、看護師と助産師の資格を持つ富田江里子さんが、貧しい方々のお産を助ける活動を長年続けているのです。江里子さんは、フィリピンの人々の生活や食事、教育、そして健康の現状を知り、できる限りの支援に取り組んでいます。FFC製品のよさを十分に理解し、積極的に活用され、スービックの人々と触れ合う富田江里子さんの活動

を目の当たりにしました。
一方、夫である富田一也さんもまた、NPO法人NEKKOとして長年フィリピン各地で植林や農業に関する支援活動を行い、イフガオ棚田群の保全のために尽力されています。そのことを知った赤塚社長は、一也さんにご案内いただき、車で10時間かけて現地を訪問しました。そこで危機的な現状を知り、FFC製品を使った環境改善の取り組みを提案。協議の結果、お互いの協力のもと、保全プロジェクトを実施することになったのです。



①②2016年4月、第1水源にFFCセラミックスを設置し、水田や周辺にFFCエースを散布。水源にはプロジェクトを示すパネルも。③早くも稲の生育の向上が見られたほか、環境が改善されたためか水鳥の飛来も。④収穫時期を迎えた棚田。⑤⑥水田の底には大きく育った食用の貝が。子どもたちが夢中で採集した。⑦2017年4月にFFCセラミックスが設置された第2水源付近。⑧2017年に収穫された米。増収の声が多く聞かれた。⑨支援に参加されたフィランソ会員様の名前が記されたサインとともに。⑩FFCセラミックスの清掃を終えた若者たち。

2016年4月、イフガオ州ウハ地区にある棚田の一つの水源にFFCセラミックスを設置。また、FFCエースが最上段の水田に散布されました。富田一也さんや現地の方々とともに、赤塚グループスタッフも設置作業を行いました。
その後、比較的早い段階で水生生物の増加や水鳥の飛来などの変化が確認。現地の方からは稲の生育状況の改善や収量が向上したなどのうれしい報告が聞かれました。また、水田の中を歩いていた子どもが足の下に大きな貝を見つけ、採り始めたところわずか15分ほどでバケツ一杯

の食用貝が採れました。二枚貝も巻貝も、以前より大きく育っているそうです。
2017年には多くのフィランソ会員様からのご支援によりFFC資材が寄付され、現地へ届けられました。4月には2ヵ所目となる水源にFFCセラミックスが設置され、現地でのFFC活用範囲が広がっています。また、FFC導入2年目となる第一水源近くの水田の持ち主からは増収の報告があり、FFC資材への信頼を示す言葉や、FFCによる支援活動に対する感謝の声が寄せられました。